

事業コード	H28-農-新-03			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事 業 名	農業農村整備調査計画費			部局課室名	農林水産部 農山村振興課
事 業 種 別	農地集積加速化基盤整備事業			班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855
路 線 名 等	大戸百崎			担当課長名	伊藤 真人
箇 所 名	秋田市			担 当 者 名	三浦 竜
総合計画と の関連	政策コード	02	政 策 名	国内外に打って出る攻めの農林水産戦略	
	施策コード	02	施 策 名	秋田米を中心とした水田フル活用の推進	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	生産性の向上による高収益農業の実現に向けた基盤整備の推進	

1. 事業の概要

事業期間	H29 ～ H34 (6 年)		総事業費	7.2 億円	国庫補助率	50%																																																																
事業規模	区画整理 A= 2 3 . 2 ha																																																																					
事業の立案に至る背景	○ 現況のほ場は10a区画で一部道路もなく効率的な営農ができない状態である。また、用排水路は土水路でかつ兼用水路のため維持管理に苦慮しており、水はけの悪いほ場では高収益作物の導入が進まず複合経営への大きな支障となっている。 ○ 米価の低迷や米需要の減少、高齢化や農業用施設・農作業機械の老朽化により、地域農業をとりまく環境はきびしく集落機能の低下が懸念されており、新たな農業経営の展開を図る必要がある。																																																																					
事業目的	○ 大区画、用排水の分離・装工、農地汎用化のための暗渠排水整備、更には高品質・高収量を目指すための地下かんがいシステムの導入により複合経営が可能な基盤づくりを行う。 ○ 集落一体となり設立する農業法人に農地を集積し、団地化・連坦化による効率的な農業経営を行うとともに、新たな作物導入により経営基盤の強化を図る。																																																																					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)	<table><tr><td colspan="2"></td><td>全 体</td><td>H29 年度</td><td>H30 年度</td><td>H31 年度</td><td>H32 年度以降</td></tr><tr><td rowspan="4">経費内訳</td><td>事業費</td><td>720,000</td><td>30,000</td><td>242,000</td><td>269,000</td><td>179,000</td></tr><tr><td>工事費</td><td>593,000</td><td>27,000</td><td>218,000</td><td>243,000</td><td>105,000</td></tr><tr><td>用補費</td><td>27,000</td><td></td><td>12,000</td><td>12,000</td><td>3,000</td></tr><tr><td>その他</td><td>100,000</td><td>3,000</td><td>12,000</td><td>14,000</td><td>71,000</td></tr><tr><td rowspan="4">財源内訳</td><td>国庫補助</td><td>345,000</td><td>15,000</td><td>122,000</td><td>134,000</td><td>74,000</td></tr><tr><td>県 債</td><td>180,000</td><td>7,000</td><td>60,000</td><td>66,000</td><td>47,000</td></tr><tr><td>その他</td><td>140,000</td><td>7,000</td><td>53,000</td><td>62,000</td><td>18,000</td></tr><tr><td>一般財源</td><td>55,000</td><td>1,000</td><td>7,000</td><td>7,000</td><td>40,000</td></tr><tr><td colspan="2">事業内容</td><td>区画整理 A=23.2ha 暗渠排水 A=23.2ha</td><td>実施設計 N=1式</td><td>区画整理 A=13.2ha</td><td>区画整理 A=10.0ha 暗渠排水 A=13.2ha</td><td>暗渠排水 A=10.0ha</td></tr></table>								全 体	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度以降	経費内訳	事業費	720,000	30,000	242,000	269,000	179,000	工事費	593,000	27,000	218,000	243,000	105,000	用補費	27,000		12,000	12,000	3,000	その他	100,000	3,000	12,000	14,000	71,000	財源内訳	国庫補助	345,000	15,000	122,000	134,000	74,000	県 債	180,000	7,000	60,000	66,000	47,000	その他	140,000	7,000	53,000	62,000	18,000	一般財源	55,000	1,000	7,000	7,000	40,000	事業内容		区画整理 A=23.2ha 暗渠排水 A=23.2ha	実施設計 N=1式	区画整理 A=13.2ha	区画整理 A=10.0ha 暗渠排水 A=13.2ha	暗渠排水 A=10.0ha
		全 体	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度以降																																																																
経費内訳	事業費	720,000	30,000	242,000	269,000	179,000																																																																
	工事費	593,000	27,000	218,000	243,000	105,000																																																																
	用補費	27,000		12,000	12,000	3,000																																																																
	その他	100,000	3,000	12,000	14,000	71,000																																																																
財源内訳	国庫補助	345,000	15,000	122,000	134,000	74,000																																																																
	県 債	180,000	7,000	60,000	66,000	47,000																																																																
	その他	140,000	7,000	53,000	62,000	18,000																																																																
	一般財源	55,000	1,000	7,000	7,000	40,000																																																																
事業内容		区画整理 A=23.2ha 暗渠排水 A=23.2ha	実施設計 N=1式	区画整理 A=13.2ha	区画整理 A=10.0ha 暗渠排水 A=13.2ha	暗渠排水 A=10.0ha																																																																
調査経緯	平成26年度基礎調査(調査費 1,500千円 県50%、地元50%) 平成27年度実施計画(調査費 3,800千円 国50%、県20%、地元30%) 平成28年度調査計画(調査費 1,200千円 県50%、地元50%)																																																																					
上位計画での位置付け	第2期ふるさと秋田元気創造プラン「秋田米を中心とした水田フル活用の推進」 第2期ふるさと秋田農林水産ビジョン																																																																					
関連プロジェクト等	特になし																																																																					
事業を取り巻く情勢の変化	○ 農産物の価格低迷や生産資源価格の上昇等農業経営を取り巻く環境が厳しさを増す中、農山村地域では過疎化や高齢化が進み、地域の集落機能の低下や担い手の不足等により、農業生産力が低下するとともに、定住基盤の崩壊が懸念されている。このためほ場整備事業を導入し、生産力の強化と法人等への集積と複合経営により経営基盤の強化を図る必要がある。																																																																					
事業効率把握の手法	<table><tr><td>指標名</td><td colspan="5">担い手が経営する面積割合</td></tr><tr><td>指標式</td><td colspan="5">地区内の担い手の経営面積 / ほ場整備地区面積</td></tr><tr><td>指標の種類</td><td colspan="3">● 成果指標 ○ 業績指標</td><td>低減指標の有無</td><td colspan="2">○ 有 ● 無</td></tr><tr><td>目標値 a</td><td colspan="3">86 %</td><td rowspan="2">データ等の出典</td><td colspan="2" rowspan="2">基盤整備関連経営体等 促進計画書</td></tr><tr><td>達成値 b</td><td colspan="3">88 %</td></tr><tr><td>達成率 b / a</td><td colspan="3">102 %</td><td>把握の時期</td><td colspan="2">平成28年 6月</td></tr></table>						指標名	担い手が経営する面積割合					指標式	地区内の担い手の経営面積 / ほ場整備地区面積					指標の種類	● 成果指標 ○ 業績指標			低減指標の有無	○ 有 ● 無		目標値 a	86 %			データ等の出典	基盤整備関連経営体等 促進計画書		達成値 b	88 %			達成率 b / a	102 %			把握の時期	平成28年 6月																												
指標名	担い手が経営する面積割合																																																																					
指標式	地区内の担い手の経営面積 / ほ場整備地区面積																																																																					
指標の種類	● 成果指標 ○ 業績指標			低減指標の有無	○ 有 ● 無																																																																	
目標値 a	86 %			データ等の出典	基盤整備関連経営体等 促進計画書																																																																	
達成値 b	88 %																																																																					
達成率 b / a	102 %			把握の時期	平成28年 6月																																																																	

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○ 小区画水田、狭小な道路、用排兼用土水路がほとんどで、効率性の悪い営農を強いられている状況であり、この課題を解決できる手段としてはほ場整備事業が必要である。	8 点
緊 急 性	○ 65歳以上の耕作者 69%	6 点
有 効 性	○ 水稲、大豆のほか、枝豆、イチゴ、ダリアなどの高収益作物を取り入れた複合経営、さらには地下かんがいシステムの導入により、農作物の高品質、高収量を実現する。 ○ 1法人により88.8%の農地を集積(法人による面的集積88.8%)	40 点
効 率 性	○ 小区画での農作業から大区画に変わること、作業の効率化・省力化が図られとともに、ほ場条件が改善されることで生産性が格段に向上する。これにより費用対効果は1.11となっている。	8 点
熟 度	○ 同意率96.8% ○ 必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている。	20 点
判 定	ランク (● ○ ○) ○ 枝豆、イチゴ、ダリアを導入し、高収益農業への転換を図るなど、ほ場整備事業を契機とする新たな営農への取り組み内容は評価できる。	82 点
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 ○ 現在、秋田市園芸振興センターで新規就農研修中の2人(20代)が法人の核となるほか、汎用水田を活かした高収益作物の作付等、ほ場整備事業に対する期待は大きく、事業の実施は妥当と考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
農業法人1法人に地区の88.8%を集積し、水稲、大豆などの土地利用型作物に加え、枝豆、ダリア、いちごなどの高収益作物の栽培拡大に取り組むほか、若手新規就農者も農業法人の設立に参加し、秋田市近郊という立地条件を活かした農産物販売などを推進することは必要性や有効性は高いことから、1次評価における総合評価は妥当と判断される。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
新たに農業法人を立ち上げ、農地集積を進めるとともに、汎用水田化により枝豆、ダリア、いちご等を導入し複合経営化に取り組むこととしており、経営基盤の強化が期待される。また、区画形状の最適化により盛土量を減らすなど、コスト縮減を図る工夫も認められる。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

事業コード(H28-農-新-03)
 箇所名 (秋田市)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配 点	評価点	摘 要		
必要性	事業の必要性						
	受益面積（地域周辺への波及度）	100ha以上（条件不利地域の場合、50ha以上） 50ha以上100ha未満（条件不利地域の場合、20ha以上50ha未満） 50ha未満	5 3 1	1			
	区画の現状（労働生産性の現状）	地区の過半が10a未満の区画 地区の過半が10a以上30a未満の区画 地区の過半が30a以上の区画	3 2 1	2			
	水路の現状（営農への支障状況）	用水路および排水路が土水路である 事業により装工された用排水路が地区内にある 事業により地区全体の用排水路が装工済みである	5 3 1	5			
	計		13	8			
	緊急性	事業未実施の影響					
	応急対策の実施状況	施設の老朽化等により応急対策は日常化している これまでに応急対策を実施したことがある 応急対策を実施したことはない	5 3 0	3			
	受益者の高齢化状況	6 5 歳以上の耕作者が 4 5 % 以上 6 5 歳以上の耕作者が 3 5 % 以上 4 5 % 未満 6 5 歳以上の耕作者が 3 5 % 未満	3 2 1	3			
	他事業との関連						
	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い 関連する他事業との調整が事業期間中に必要 関連する他事業との調整を必要としない	2 1 0	0			
計		10	6				
有効性	上位計画への貢献度						
	ふるさと秋田元気創造プランでの位置づけ	プランに関連する事業である プランとは別の個別計画に関連する事業である プラン、個別計画に関連しない事業である	5 3 0	5			
	適債工種への位置づけ						
	地域排水型暗渠排水	暗渠排水が、市町村防災計画等で位置づけられている 暗渠排水を、3年以内に市町村防災計画等に位置づける予定である 暗渠排水を、市町村防災計画等に位置づける予定はない	5 3 0	5			
	期待される具体的効果						
	若手就農者、就農候補者状況	49歳以下の就農者、就農候補者がいる 50～60歳の就農候補者がいる 60歳以下の就農候補者がいない	2 1 0	2			
	農地集積及び法人の面的集積	法人への面的集積率が70%以上である（且つ農地集積率85%以上） 法人への面的集積率が50%以上70%未満（且つ農地集積率55%以上） 中心経営体（法人・個人担い手）への農地集積率が55%以上である	10 7 3	10			
	農業所得	農業生産法人オペレーターの農業所得が他産業並みの450万円以上 農業生産法人オペレーターの農業所得が他産業並みの450万円未満	5 0	5			
	6次産業化への取組	生産・加工・販売に取り組む 生産だけでなく、加工または販売、契約栽培に取り組む 生産だけ行う	5 3 0	5			
	複合化の取組	新規作物（高収益作物）の導入が図られ、TPP関連要件を満たす 新規作物（高収益作物）の導入が図られず、現状と変わらない	5 0	5			
	品質や収量の向上	地下かんがいシステム、新技術の両方を導入する 地下かんがいシステムを導入する 地下かんがいシステムを導入しない	5 3 0	3			
	計		42	40			
	効率性	事業の投資効果					
		費用対効果	B / C = 1 . 2 以上 B / C = 1 . 0 以上 1 . 2 未満	5 3	3		
		事業実施コストの縮減					
		コスト縮減計画	コスト縮減計画を策定、事業計画に反映 コスト縮減計画を特に検討していない	5 0	5		
		計		10	8		
熟度	地元の合意形成の状況						
	同意状況	全員の同意が得られている 未同意者が存在するが、事業実施に支障がない 未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	15 10 0	10			
	事業推進のための各種協議の進捗状況						
	進捗状況（水利権、道路協議等）	必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている 協議中であり、合意が得られる見込みである 協議中であり、合意時期が未定である	5 3 1	5			
	環境と調和への配慮状況						
	環境保全への配慮	地域環境検討委員会を設置、環境保全への取組内容が十分 地域環境検討委員会を設置、環境保全への配慮を検討中 地域環境検討委員会が未設置	5 3 0	5			
	計		25	20			
	合計			100	82		

2. 判定

ランク	判定内容	配 点	判定	摘 要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		